

いじめ問題

滋賀県大津市で起きたいじめ事件。みなさんも新聞やテレビで知ったかと思えます。子どもを見守る大人たちは、みなさんのために自分ができることをちゃんと実行しているか、あらためて真剣に考えています。もしも悩んでいる子がいたら、誰かに相談してほしい。きつと力になるから。大人たちは、心からそう思っています。

(遠藤 綾乃)

■学校の先生

横浜市立大鳥中学校(中区)の齋藤宗明校長は、毎朝、先生や地域の大人と校門前に立って、登校してくる生徒たちに「おはようございます!」と声をかけるあいさつ運動をしています。

「大切なのは、大人が見守っていることを伝えること」

すか?

齋藤校長先生は「生きていれば人とぶつかり合うのは当たり前。それをどうやって解決するか考えることで、子どもたちの成長もあるんです。すぐに手助けするのではなくて、子どもたち自身の力を信じることも大人の役割、というのです。

ただ、子ども同士で解決で

悩み一緒に

と齋藤校長先生。生徒たちも「おはようございます!」と返します。

きないことになりそうなきは先生の出番。「先生も友達もSOSを見落とさない、そして本人がいつでも相談できる雰囲気を作り出すからつく

「相談できる雰囲気を」



毎朝、校門の前で「おはようございます」と声をかけ合うあいさつ運動—20日、横浜市立大鳥中学校

「頼る選択肢も」

ておくことが大切です。あいさつ運動は、そんな雰囲気をつくる意味もあるそうです。

■地域の人

横須賀市上町の商店街の中、不登校の子どもの居場所や勉強のお手伝いをする「アンガーシューマン・よこすか」があります。

そこで働く島田徳隆さんは「いじめって、ほとんどの子が経験しているんじゃないかな」と軽やかに言います。そこには、自分一人だけと悩まなくてもいいんだという

メッセージが込められているようです。

「苦しいとき、立ち向かう力や、ときには逃げる手段を身につけられればと思います」

でも、学校を休むのは子どもにとって勇気のいることだと思っのですが?

「大丈夫です。そんなことでその後の人生は決まりません」ときっぱり。実際にアンガーシューマンを卒業していった子どもたちも、進学したり就職したり、それぞれの人生を送っているのだそうです。

「学校でも家族でも友達でもない、地域の大人に頼るとい選択肢もありますよ。声をかけてもらいやすい関係をつくっていく努力を、自分たちも続けていきます」



約束します、成長力。
—成長支援第一主義—

世界へ、そして未来へ
KJ 神奈川大学